

理科

(6) 理科

観 点	着 眼 点
1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	(1) 理科の見方・考え方を働かせ、問題を科学的に解決しようとする学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (2) 問題を見だし、予想や仮説、観察、実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動、観察、実験の結果を整理し考察する学習活動及び科学的な言葉や概念を使用して考えたりする学習活動など、言語能力の育成を図るための工夫 (3) ・情報活用能力の育成に向け、ICT機器を活用した学習活動の充実を図るための工夫 ・児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考を身に付けるための学習活動を実施する工夫 (4) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 生物、天気、川、土地などの学習に当たって、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を取り入れるための工夫 (6) 児童が自然の事物・事象に興味・関心をもてるよう、問題を見だすための自然の事物・現象の提示や、日常生活と関連を図った学習活動など、児童の自主的・自発的な学習を促すための工夫 (7) 他の教科や中学校等との関連を図った学習活動を充実するための工夫
2 使用上の便宜	(1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫 等
3 その他	・今日的な諸課題への対応や事故防止など安全への配慮を行うための工夫

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
2 東書	<p>●着眼点(1)について 各場面で「理科の見方・考え方」を、青枠で具体的に示し、児童がそれらを意識的に働かせながら思考することで、「深い学び」につなげ、問題解決の力を育成できるよう工夫されている。 〔例〕3年「チョウのかんさつ」(P22～34)、4年「天気と気温」(P30～37) 対話の場面では、対話的な学びの参考になる児童の発言例をイラストやデジタルコンテンツの「デジ活」で示し、児童が個人で考える際のヒントとなるよう工夫されている。 〔例〕5年(P22、P24)</p> <p>●着眼点(2)について 個人で考えた後に、具体的な対話例をヒントにしながら話し合いを進めていくことで、誰もが話し合いに参加でき、言語活動が充実するよう工夫されている。 〔例〕3年(P44) ノートの書き方、授業に即した記録カード、ノートの例を示すことで、書く力が育成できるよう工夫されている。 〔例〕3年「物の重さ」(P118～128)、4年「暑くなると」(P62～69)</p> <p>●着眼点(3)について 端末や電子黒板などを活用しながら学ぶ場面を設け、ICT 機器に親しみ、それらの使い方の基礎を身に付けることができるよう工夫されている。 〔例〕5年(P79)、6年(P181) 巻末に特集「理科とプログラミング」を設け、デジタルコンテンツで実際にプログラミングを体験できるよう二次元コードが配置されている。 〔例〕6年「電気と私たちの暮らし」(P147～149)</p>	<p>●着眼点(4)について 単元導入に、問題をつかむための活動「レッツトライ！」を設け、学習の流れを示し、見通しをもって観察、実験を行うことができるよう工夫されている。 〔例〕3年「風やゴムのはたらき」(P42～52)、4年「自然のなかの水のすがた」(P92～100) 単元末には、学んだ内容をまとめた「ふりかえろう」を設け、調べてきたことやまとめた内容を把握し、学習を振り返ることができるよう工夫されている。 〔例〕5年(P91)</p> <p>●着眼点(5)について 身近な自然に興味をもち、それらを観察するなど、児童自らの体験を通して問題解決を行うことができるよう工夫されている。 〔例〕3年「春の生き物」(P6～13)、4年「あたたかくなると」(P6～P15)</p> <p>●着眼点(6)について 単元末には「こんなところも！理科探検部」、節末には「広げよう！理科の発想」「理科の世界 たんけん部」を設定し、児童が学んだことを生かして日常生活の事象について考えることができるよう工夫されている。 〔例〕4年(P29)、5年(P151)</p> <p>●着眼点(7)について 「思い出そう」を配置し、他教科の既習の内容や生活経験との関連を図りながら学習が進められるよう工夫されている。また、6年の巻末の「1年間をふりかえろう」では、系統的につながる中学校の学習内容項目を示して、中学校との関連を図ることができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P14)、5年(P142)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
<p style="text-align: center;">4 大日本</p>	<p>●着眼点(1)について 各単元の「見つけよう」と「伝えよう」には、「理科の見方」につながる着目点を「ココに注目」で表し、「理科の見方」を働かせた問題解決の活動ができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P6、P7) 観察、実験では、いろいろな方法で調べられることを示すなど、「理科の考え方」を働かせることができるよう工夫されている。 〔例〕5年「天気の変化」(P4～19)、6年「生物と地球環境」(P70～91)</p> <p>●着眼点(2)について 児童がノートや観察カードをつくる際の参考になるよう、具体的に書く内容や書き方が示されている。 〔例〕3年「理科ノートの書き方」(P194)、4年(P22) 話し合いの活動場面を積極的に取り上げることによって、児童が自分の考えを伝えたり、他の児童の考えを聞き取ったりする活動を通し、言語能力の育成を図れるよう工夫されている。 〔例〕5年「もののとけ方」(P102～123)、4年「とじこめた空気や水」(P40～51)</p> <p>●着眼点(3)について 観察、実験などの記録、資料を調べる活動など、ICT機器の活用が考えられる活動では、そのようすを写真やイラストで掲載するなど情報活用能力が育成できるよう工夫されている。 〔例〕4年「タブレットを使ってみよう」(P217)、5年(P7) プログラミングを体験することを通して、論理的思考力が身につくよう工夫されている。 〔例〕6年「私たちの生活と電気」(P185～189)</p>	<p>●着眼点(4)について 巻頭の「理科の学び方」のページで、問題解決の過程を示し、アイコンやラインにより、関連した学習のどの場面であるかを把握できるよう工夫されている。また、児童に身近な現象を提示するとともに、話し合っただけで学習を進めていく場面を設定することで、見通しをもって問題解決の活動ができるよう工夫されている。 〔例〕3年「理科の学び方」(P2、P3)、5年「植物の発芽と成長」(P20～39) 「確かめよう」を単元末に設定し、学習した知識・技能が確実に習得できるよう配慮されている。 〔例〕3年(P124)、6年(P20)</p> <p>●着眼点(5)について 身近な自然の観察を通して、児童が自然の様子に興味をもち、自ら課題を見つけられるよう工夫されている。 〔例〕3年「しぜんのかんさつ」(P4～13)、4年「季節と生物 春」(P14～P23)</p> <p>●着眼点(6)について 各単元の紙面は、「ふしぎだな?」「なぜだろう?」から始まり、体験したり、写真を見たりすることから問題を見つける活動を促す構成になっており、児童が自然の事物・事象に興味関心をもち、主体的な学習を進めることができるよう工夫されている。 〔例〕4年(P24、P25)、6年(P94、P95)</p> <p>●着眼点(7)について 「算数科とつなげよう」など、他教科や下位学年と関連するところをマークで示し、巻末には他教科や下位学年の学習との関連についてまとめて内容が示されている。また6年の巻末の「中学生になったら……」では、中学校で学習する内容を紹介して、興味・関心を高めるよう配慮されている。 〔例〕3年(P18)、6年(P160)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
1 1 学図	<p>●着眼点(1)について 学年冒頭で問題解決の過程を8つのステップで示し、働かせる見方を道具(ゴーグル)、更につけたい力(資質・能力)を理科モンスターとして、各単元に登場させることで、これらを意識しながら問題解決できるよう工夫されている。 〔例〕3年(P2、P3、P4、P5)、5年「種子の発芽と成長」(P20~39) 既習内容をもとに予想や考察を行ったり、学習と身の回りの出来事をつなげて考えたりすることで、児童が新たな問いを生み出すことができるよう配慮されている。 〔例〕4年(P56~58)、5年「人のたんじょう」(P162~173)</p> <p>●着眼点(2)について 自分の驚きや発見を伝え合う活動を通して、相手に根拠をもって説明したり、自分の考えを説明したりするなど、表現力を育むことができるよう工夫されている。 〔例〕4年「空気と水」(P26~37)、6年「ものの燃え方と空気」(P10~29) 予想の話し合いや結果の発表などで情報交換をする場を設け、一人一人が立てた予想や結果をもとに考えたことを比較・検討する活動を通して、言語活動の充実が図られるよう配慮されている。 〔例〕5年「電流と電磁石」(P122~139)</p> <p>●着眼点(3)について 記録や調べ学習、発表などの各場面においてイラストや写真を示し、効果的な場面でICT機器を活用できるよう工夫されている。 〔例〕4年「季節の星座を見てみよう」(P80~83)、5年(P100) プログラミングを体験することができる二次元コードが配置されている。 〔例〕6年「プログラムを作る」(P198~201)</p>	<p>●着眼点(4)について 単元冒頭で、その単元でつけたい力を「できるようになりたい」で示し、児童が学習の目標として、見通しをもって学ぶことができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P17)、4年(P17) 単元末の「ふりかえろう」「できるようになった」において、問題の解答チェックを個人で行い、学びを振り返ることができるよう二次元コードが配置されている。 〔例〕5年(P53)、6年(P81)</p> <p>●着眼点(5)について 身近な自然に興味をもち、それらを観察するなど、児童自らの体験を通して問題解決を行うことができるよう工夫されている。地域によっては観察できるもの、できないものがあることにも触れられている。 〔例〕3年「しぜんのかんさつ」(P6~15)、4年「季節と生き物」(P6~15)</p> <p>●着眼点(6)について 解決したくなるような導入や場面を設定し、児童が知りたい、学びたいと興味をもてるような構成とし、児童の意欲を引き出し、児童が主体的な学習を進めることができるよう工夫されている。 〔例〕4年(P88、P89)、5年(P6、P7)</p> <p>●着眼点(7)について 算数科との連携を図り、平均の求め方や実験結果をグラフや表にまとめる活動が取り入れられている。また、6年の巻末の「理科の世界をふりかえろう」では、系統的につながる中学校の学習内容項目を示して、中学校との関連を図ることができるよう工夫されている。 〔例〕6年「理科の世界をふりかえろう」(P230、P231)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 単元ごとに主人公を設定し、主人公が問題を解決していく姿を追うことによって、児童が主体的に学習を進められるよう配慮されている。 〔例〕3年「生き物を調べよう」(P8～19)、4年「電流のはたらき」(P44～59) 問題解決の過程ごとに、児童が予想を伝え合ったり、得られた結果をもとに考えを発表し合ったりする場面を取り上げ、対話的な学習が進められるよう配慮されている。 〔例〕3年(P16)、5年「ふりこ」(P63～73)</p> <p>●着眼点(2)について 様々な単元で、問題に対する予想や調べ方などについて、児童の考えを伝え合う場面を設定することによって、言語活動の充実が図られるよう配慮されている。 〔例〕5年「植物の発芽や成長」(P22～47)、6年「ものの燃え方と空気」(P8～23) 表やグラフをもとに考えたり説明したりする場面を取り上げ、考察が深められ、話し合い活動が促されるよう工夫されている。 〔例〕3年「風やゴムの力」(P50～P61)、4年「天気による気温の変化」(P20～P31)</p> <p>●着眼点(3)について ICT 機器の活用が想定される場面に「コンピュータマーク」や「デジカメマーク」をつけて、ICT 機器の活用例を示し、情報を活用して学習できるよう工夫されている。 〔例〕3年(P63)、6年(P123) プログラミングについて、体験ができ、解説動画などを視聴できるよう二次元コードが配置されている。 〔例〕6年「プログラムの利用」(P187～191)</p>	<p>●着眼点(4)について 「計画しよう」で、観察、実験の結果を予想する児童の姿を表現し、見通しをもって学習できるよう工夫されている。 〔例〕3年(P52)、4年(P146) 単元導入の「学習前の〇〇さん」と単元末の「学習後の〇〇さん」では、学習前後の成長を確認できるようにしている。また、単元末の「確かめよう」では、児童が基礎的・基本的な知識や技能について振り返ることができるよう工夫されている。 〔例〕4年「雨水と地面」(P78～89)、6年(P105)</p> <p>●着眼点(5)について 児童が主体的に関われるよう、地域の自然についての直接体験を重視した観察や調査などの活動が積極的に取り入れられている。 〔例〕5年「メダカのたんじょう」(P48～59)、6年「土地のつくり」(P106～127)</p> <p>●着眼点(6)について 単元導入の「見つけよう」において、魅力ある事象や2つの異なる事象が提示されており、事象に対する主人公の疑問や気づきをもとに、児童が活動や話し合いを通して、問題発見につながられるような構成となっており、児童の主体的な学習が進められるよう工夫されている。 〔例〕3年「こん虫の世界」(P72～83)、4年「とじこめた空気や水」(P104～115)</p> <p>●着眼点(7)について 巻頭の「自分たちの考えをつたえ合い、学び合おう」では国語との関連、単元中や巻末の「算数とのつながり」では算数科との関連が示されている。6年の巻末の「6年で学んだこと」では、系統的につながる中学校の学習内容項目を示して、中学校との関連を図ることができるよう工夫されている。 〔例〕6年(P218)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
26 信教	<p>●着眼点(1)について 気づきや疑問、考えのヒントが吹き出しで示され、児童が予想や見通しをもちやすいよう工夫されている。また、観察や実験のポイント、次の追究につながるポイントなどを示すことによって、問題解決の筋道を捉えることができるよう工夫されている。 [例] 5年「種子の発芽」(P22～33) 6年「電気の利用」(P154～175) 観察、実験、調査の手順や方法などに対応した説明文や写真・イラストなどを示し、児童が主体的に学習できるよう工夫されている。 [例] 3年「音のせいしつ」(P128～135)、4年「ものの温度と体積」(P36～51)</p> <p>●着眼点(2)について 予想や仮説、観察、実験の方法について考えて説明する場面や、結果を整理し考察したことを説明する場面などを設定し、言語能力の育成を図ることができるよう工夫されている。 [例] 5年「種子の発芽」(P22～P33)、6年「月と太陽」(P80～91) 観察、実験の結果を表やグラフ、文章で記録し、自分の考えをわかりやすく伝える例を示すとともに、単元の学びを振り返り、児童の言葉や表現でまとめることができるよう、結果の整理や考察を例示するなどして、言語能力の育成に向けて配慮されている。 [例] 3年(P53)、4年(P92、P93)</p> <p>●着眼点(3)について 必要な情報を、コンピュータなどを有効に使って集め、学習に活用することができるよう配慮されている。 [例] 4年(P56～59)、5年(P69) 論理的な思考を身につけるため、プログラミングを扱う単元が設定されている。 [例] 6年「電気の利用」(P154～175)</p>	<p>●着眼点(4)について 自然の事物・現象に興味・関心をもち、学習することへ意欲や期待感を高め、学習活動の見通しがもてるよう見開き写真やイラストなどの提示が工夫されている。 [例] 4年「生き物のくらし～夏～」(P60～65)、6年「大地のつくりと変化」(P92～94) 単元で学習したことをまとめるページを設け、問題を見いだすことから問題解決までの一連の課程を振り返り、基礎的・基本的な内容の確かな理解と定着に向け工夫されている。 [例] 3年(P62)、4年(P30)</p> <p>●着眼点(5)について 学校内外での自然体験活動を多く取り入れ、自然観察の具体例が掲載されており、児童が地域の自然に親しむことができるよう配慮されている。 [例] 3年「身近なしぜんのかんさつ」(P20～29)、6年(P106)</p> <p>●着眼点(6)について 単元の始めに、自然や身近な事物・現象についての写真を提示し、児童が自然の事物・現象に興味・関心をもち、学習することへの意欲や期待感を高め、単元がスタートできるよう工夫されている。 [例] 4年(P80、P81)、5年(P126)</p> <p>●着眼点(7)について 算数科との連携を図り、平均を求め方や実験結果をグラフや表にまとめる活動が取り入れられている。また、6年の巻末の「中学校の理科」では、系統的につながる中学校の学習内容項目を示して、中学校との関連を図ることができるよう工夫されている。 [例] 6年(P187)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
61 啓林館	<p>●着眼点(1)について 各学年の巻頭のガイダンスページでは、探究の世界へいざなうメッセージや探究心をゆさぶる写真・資料を掲載し、主体的な問題解決に導くよう工夫されている。 〔例〕3～6年巻頭 理科の見方・考え方を働かせ、対話的で深い学びにつなげるために、対話的な活動の場面や、先生の問いかけ、児童の発言の例が随所に示されている。また、巻末の「話し合いのしかた」では、話すときと聞くときの要点を例示し、主体的・対話的で深い学びになるよう工夫されている。 〔例〕5年「雲と天気の変化」(P14～31)、6年(P12)</p> <p>●着眼点(2)について 単元末に「ふり返ろうまとめノート」、巻末にノートのまとめ方、伝え方について具体例を示し、学習内容をまとめる習慣づけができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P105)、6年(P65、P206～208) 「けっかから考えよう」を設置することで、結果をもとに、考察する過程が示されており、科学的に考え、話し合う活動が充実するよう工夫されている。 〔例〕3年(P166)、4年(P84)</p> <p>●着眼点(3)について コンピュータやタブレットなどの活用に適した場面では、「ICTマーク」を付して、コンピュータなどの利用を紹介し、活用できるよう配慮されている。 〔例〕4年(P68)、5年(P91) 「やってみよう！プログラミング」を全学年に設け、6年では「条件」と「動作」のプログラミングをシミュレーターで体験できるようにし、プログラミング的思考を段階的に育成できるよう工夫されている。 〔例〕6年「電気の利用とむだなく使うくふう」(P181～186)</p>	<p>●着眼点(4)について 巻頭の「理科の楽しみ」では、問題解決の過程を3段階に分け、理科の「学びのサイクル」を示し、単元内では各過程を言葉で明確に示すとともに、全ての過程を「学びのライン」でつなぐことで、見通しをもって学習できるように工夫されている。 〔例〕4年「水のすがた」(P154～169) 単元末の「まとめノート」や「たしかめよう」で、学習内容を振り返ることができるよう配慮されている。 〔例〕4年(P125)、6年(P66)</p> <p>●着眼点(5)について 単元の始めに児童が自然に親しみ、興味をもつことを促したうえで、自然について直接体験を行いながら学習を展開できるよう工夫されている。また、地域の自然環境を生かした学習ができるよう配慮されている。 〔例〕5年「雲と天気の変化」(P14～29)、6年「食べ物を通した生物のつながり」(P70～74)</p> <p>●着眼点(6)について 児童が、関心や意欲をもって学びに向かえるよう写真、イラストが工夫されている。また、「理科の広場」や「くらしとリンク」を設置し、関わる身近な題材を掲載し、理科への興味・関心を高めるよう工夫されている。 〔例〕4年(P52、P53)、5年巻頭</p> <p>●着眼点(7)について 「他教科マーク」や「思い出そう」を通じて、他教科との関連がある学習内容や複数の単元にまたがる学習内容を振り返って関係づけることができるよう工夫されている。また、系統的に中学校の学習内容項目を示し、中学校との関連を図ることができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P116)、6年(P63)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ページ	(1) 内容別配当の分量				(2) 教材・資料等の分量								
		物質・エネルギー	生命・地球	その他	実験の例示数	観察・観測の例示数	ものづくりの例示数	安全面の配慮・注意	発展的な内容	読み物資料	単元のまとめ	I C T活用	三重県に関わる記述	
2 東書	3年	177	66	88	23	14	14	5	20	2	18	10	142	-
	4年	201	66	106	29	16	17	1	29	1	21	11	160	-
	5年	169	48	96	25	15	5	1	14	1	13	9	125	-
	6年	201	70	106	25	22	3	1	28	5	18	9	142	○
4 大日本	3年	205	83	102	20	12	12	12	20	1	36	11	155	-
	4年	229	84	121	24	16	21	4	45	12	41	10	141	-
	5年	197	56	110	31	17	4	2	19	8	36	10	126	-
	6年	233	78	124	31	11	2	1	31	14	38	10	145	-
11 学図	3年	185	81	80	24	17	16	8	25	4	16	12	118	-
	4年	205	72	110	23	19	18	1	19	3	20	10	128	-
	5年	193	50	120	23	16	4	2	15	8	31	9	98	-
	6年	233	90	120	23	23	4	2	34	10	36	9	140	-
17 教出	3年	193	84	86	23	15	15	8	23	2	33	12	51	-
	4年	233	80	130	23	18	17	5	48	3	33	12	73	-
	5年	209	60	122	27	21	4	3	26	5	38	9	75	○
	6年	225	78	124	23	22	4	0	57	4	44	8	77	○
26 信教	3年	165	78	70	17	21	16	12	15	6	34	9	40	-
	4年	193	72	105	16	35	22	2	39	11	39	11	64	-
	5年	157	49	92	16	24	6	4	13	7	27	12	69	-
	6年	189	72	102	15	33	15	4	29	8	24	8	75	-
61 啓林館	3年	189	78	84	27	14	13	6	26	4	25	10	90	○
	4年	201	66	106	29	18	16	0	24	3	30	10	90	-
	5年	193	54	110	29	18	5	2	16	2	22	9	117	○
	6年	217	74	112	31	22	3	0	21	6	40	9	115	○

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童への配慮、編集上の工夫等

<p>2 東書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A4判が使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・一段組みで紙面が構成されており、問題解決のステップの区切り明確化し、学びの流れを捉えることができるよう工夫されている。 ・多色の使用を控え、全体の色調が緑とオレンジで統一されている。 ・単元導入のページと節末の「まとめ」では、すべての漢字にふりがなをつけ、児童が学習しやすいよう工夫されている。
<p>4 大日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A4判が使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・本文やキャラクターの台詞などは読みやすい位置で改行されている。 ・教科書のデザインやレイアウト、文字の大きさや配色等について配慮されている。
<p>1 1 学図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判が使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・ユニバーサルデザインの視点でレイアウトや内容を精選することができるよう工夫されている。 ・1過程ごとに写真や図を対応させたり、できたらチェックして確認するなど、児童自身でどこまでできているかを把握できるよう工夫されている。
<p>1 7 教出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判より少し大きな判型が使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・文節改行を言葉の途中で文章を改行せず、文節で改行されている。 ・色名を表示したり、識別しやすい配色を用いたりするなど、色覚について配慮されている。
<p>2 6 信教</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判が使用されている。 ・色覚特性に対応するなど、ユニバーサルデザインとしての配慮がなされている。 ・学習の中で学んだ理科的な用語は、初出の時点でゴシック体で表記されており、基礎的・基本的事項の理解・定着を図るよう工夫されている。 ・学習問題、観察・実験などは、文字の大きさや文字型を変えるなど、視覚について配慮されている。
<p>6 1 啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判を使用している。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・色覚の個人差を問わず、紙面の内容が判別しやすい配色・デザインが用いられている。 ・問題解決の各過程を「学びのライン」に沿って示したり、本文などのテキストを意味改行したりするよう配慮されている。

3 その他

発行者の 番号・略称	今日的な諸課題への対応、事故防止など安全への配慮を行うための工夫
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な諸課題への対応として、環境教育、SDGs、防災教育、キャリア教育に関する資料が掲載され、SDGsに関しては6年の最初と最後の単元で、SDGsと学習内容をつなげることができるよう工夫されている。 〔例〕6年「地球と私たちの暮らし」(P6～9)「地球に生きる」(P174～183) ・安全に観察、実験が行えるよう「きけんマーク」と赤い文字で強調し、禁止事項の理由を付記し、安全に実験や観察などを行うことができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P96)、4年(P43)
4 大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な諸課題への対応として、環境教育、SDGs、防災教育、キャリア教育に関する資料が掲載され、「環境」「SDGs」「理科と仕事」などのマークが示されている。 〔例〕3年(P183)、6年(P205) ・安全に対する配慮が必要な場面には「注意マーク」を付すとともに、説明文を赤字で強調して示すことによって、安心・安全に観察や実験などを行うことができるよう工夫されている。 〔例〕4年(P139)、6年(P109)
1 1 学図	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な諸課題への対応として、環境教育、SDGs、防災教育、キャリア教育に関する資料を掲載し、SDGsに関して知ることができるデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが配置されている。 〔例〕6年(P6) ・児童が安全に観察・実験できるよう「注意マーク」とともに注意文を表記し、安全に観察や実験などを行うことができるよう工夫されている。 〔例〕4年(P163)、6年(P12)
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な課題への対応として、環境教育、SDGs、防災教育、キャリア教育に関する資料を掲載し、SDGsに関しては詳しく知ることができるQRコンテンツ「SDGsずかん」が設けられている。 〔例〕6年(P1) ・「注意マーク」と「危険マーク」とともに、注意文や警告文が記されている。また、各学年の裏表紙に「理科の安全の手引き」が記載され、児童の実験や観察への意識が高まるよう工夫されている。 〔例〕6年(P175)、3～6年(裏表紙)
2 6 信教	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な諸課題への対応として、環境教育、SDGs、防災教育、キャリア教育に関する資料を掲載し、6年の巻末にはSDGsについてのページが設けられている。 〔例〕6年(P184、P185) ・学習上の注意については注意マークとともに、安全面に関わる注意は赤色、正しく学習を進めるための注意は青色と、色を分けて示し、危険防止が図られ、安全に観察や実験などを行えるよう工夫されている。 〔例〕4年(P61)、5年(P37)
6 1 啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・今日的な諸課題への対応として、環境教育、SDGs、防災教育、キャリア教育に関する資料を掲載し、SDGsに関しては特設サイト「わくわくSDGs」で、より詳しい情報を知ることができるように工夫されている。 〔例〕5年(P43) ・観察・実験では、「注意マーク」、「保護眼鏡マーク」、「かん気マーク」とともに注意文を付すことで、安全に観察や実験などを行うことができるよう工夫されている。 〔例〕3年(P93)、5年(P75)